田原本町埋蔵文化財調査年報 1

1988・1989年度

金剛寺遺跡第 2 次調査

十六面・薬王寺遺跡第 5 次調査

法貴寺斉宮前遺跡

唐古・鍵遺跡第37次調査

1990

田原本町教育委員会

例　　言

1．本年報は、田原本町教育委員会が昭和63年度・平成元年度に実施した発掘調査19件と試掘及び立会調査の概要を緊急的にまとめたものである。発掘調査のうち、重要な成果が得られたものについては別途、その概要を作成中である。国庫補助事業としては、昭和63年度に唐古・鍵遺跡第33次調査（前年度からの継続）、平成元年度に薬王寺南遺跡をおこなった。

2．調査は、保津・宮古遺跡第３次調査と羽子田遺跡第３次調査が奈良県立橿原考古学研究所との合同調査で、現地調査は保津・宮古遺跡が同研究所今尾文昭氏、羽子田遺跡が菅谷文則・伊藤勇介・西藤清秀諸氏が担当された。他の遺跡調査は、田原本町教育委員会が実施し、現地調査は藤田三郎があたった。

3．本年報の作成にあたっては北野隆亮の協力を得、執筆・編集は藤田があたった。

目　　次

Ⅰ．はじめに……1

Ⅱ．調査した遺跡の概要……4

1．昭和63年度

(1)　唐古・鍵遺跡第33次調査……4
(2)　唐古・鍵遺跡第36次調査……6
(3)　唐古・鍵遺跡第37次調査……7
(4)　法貴寺斉宮前遺跡……9
(5)　東井上大日塚遺跡……10
(6)　保津・宮古遺跡第１次調査……11

2．平成元年度

(7)　保津・宮古遺跡第２次調査……12
(8)　阪手遺跡第３次調査……12
(9)　十六面・薬王寺遺跡第５次調査…13
(10)　保津・宮古遺跡第３次調査……14
(11)　羽子田遺跡第３次調査……15
(12)　小阪里中遺跡第２次調査……16
(13)　唐古・鍵遺跡第38次調査……17
(14)　唐古・鍵遺跡第39次調査……18
(15)　金剛寺遺跡第２次調査……19
(16)　八尾遺跡第１次調査……20
(17)　八尾遺跡第２次調査……21
(18)　阪手北遺跡第２次調査……22
(19)　薬王寺南遺跡……23

Ⅲ．試掘調査・立会調査の概要……24

Ⅰ．はじめに

田原本町における発掘届出件数は近年、増加傾向がみられてきたが、ここ一・二年の届出件数の増加は急激である。この現象は大阪府周辺の諸都市と同様のものと思われ、奈良盆地の田園地帯にも及んできている。さて、田原本町における昭和63年度の発掘届・通知は44件、平成元年度は47件である。このうち、田原本町教育委員会がおこなったものは、昭和63年度が発掘調査６件、試掘・立会調査22件、平成元年度が発掘調査13件、立会調査８件である。これらの発掘調査では、いくつかの重要な成果が得られたものがある。時代ごとにまとめてみると以下のようになる。

旧石器・縄文時代の遺跡はまだ、見つかっておらないが、縄文土器片は唐古・鍵遺跡第37次調査や十六面・薬王寺遺跡第５次調査で各１片出土している。弥生時代の調査では唐古・鍵遺跡の調査（第33・37～39次）が大きな成果をあげた。第33次調査では、遺跡南端で環濠を数条確認し、また、遺物では細形銅矛片、木製戈など重要遺物が出土した。第37次調査は唐古池内部の西側堤防にあたる部分であった。ここは、北端を限る環濠から居住部分にあたるところで、多数の土坑と溝を検出した。特に弥生時代中・後期の井戸には多数の遺物が投棄されており、卜骨などの祭祀遺物も含まれ注目できるものである。第39次調査では、遺跡の南端で弥生時代中期の河跡を検出した。同時代の河跡検出例としては、保津・宮古遺跡の第３次調査がある。

古墳時代の遺跡の調査は、６件におよび、各地域におよんでいる。古墳時代の集落関連の遺構を検出したものとしては、保津・宮古遺跡第１次調査、十六面・薬王寺遺跡第５次調査、金剛寺遺跡第２次調査、八尾遺跡第１次調査、薬王寺南遺跡がある。保津・宮古遺跡では、古墳時代前期の井戸から木製楯を検出している。楯の完存品では最も古い一例となった。保津・宮古遺跡・八尾遺跡も同じく古墳時代前期の集落跡である。金剛寺遺跡では方形プランの住居跡１棟と溝、井戸、八尾遺跡でも井戸を検出している。十六面・薬王寺遺跡や薬王寺南遺跡は古墳時代中・後期が中心で、前者では井戸や柱穴、後者では足跡などを検出している。

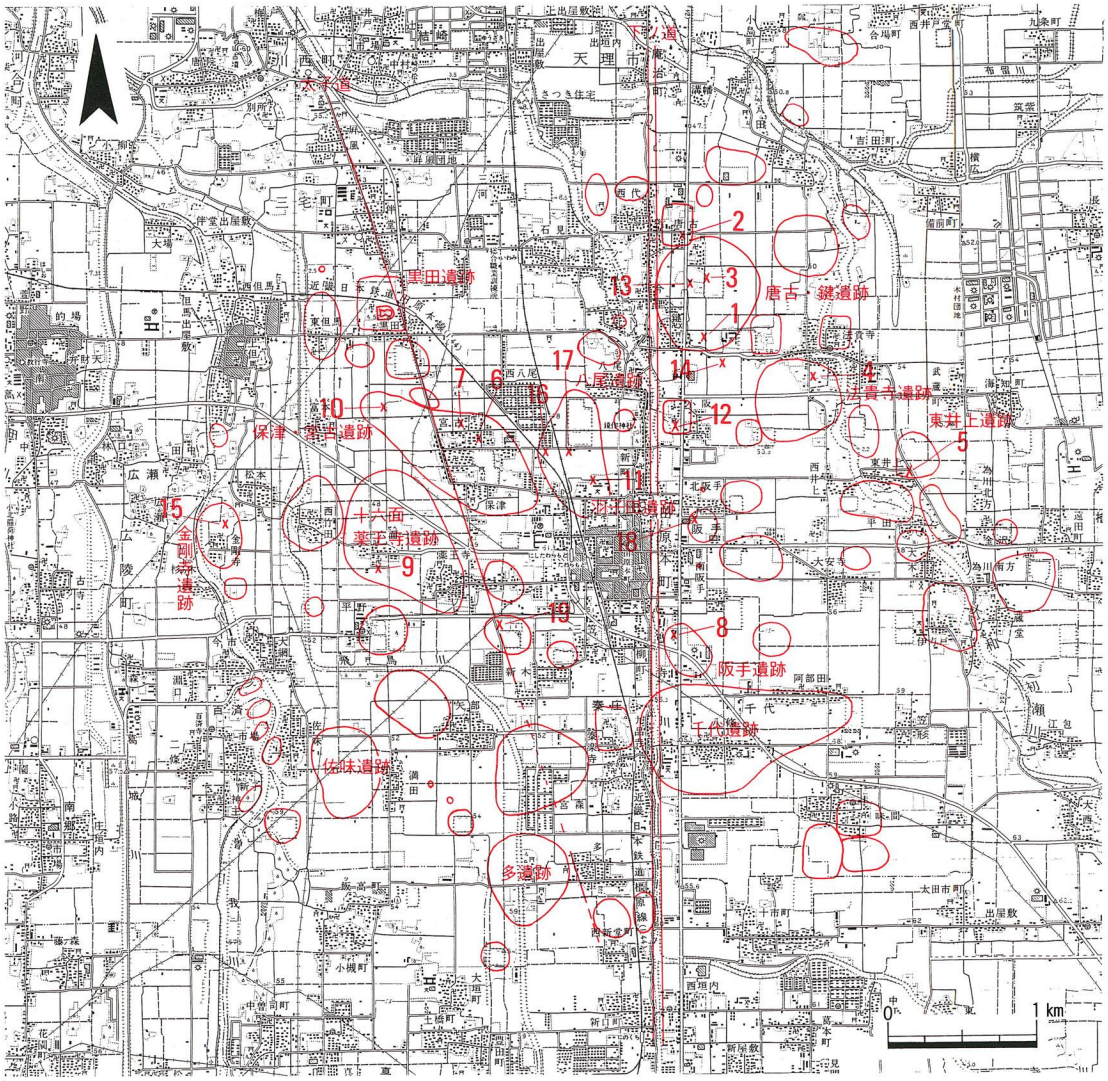
古墳の調査として羽子田遺跡第３次調査がある。後円部周濠部分の調査で４世紀後半の円筒埴輪が出土した。低地部ではあまり例のない時期の古墳となった。

古代の遺跡調査では保津・宮古遺跡第３次調査があり、飛鳥時代の建物跡を検出した。これは県の４次調査で検出されたものと一連で氏族にかかわる集落、公的施設が考えられている。

中近世遺跡の調査としては法貴寺斉宮前遺跡、東井上大日塚遺跡、十六面・薬王寺遺跡第５次調査、唐古・鍵遺跡第36・38次調査、金剛寺遺跡第２次調査などがある。法貴寺斉宮前

遺跡や唐古・鍵遺跡第36次調査では寺関係と思われる遺構を検出している。また、東井上大日塚遺跡は宝篋印塔が原位置で出土し、卒塔婆堂の可能性がある。一方、唐古・鍵遺跡や金剛寺遺跡では在地武士の居館関係の遺構も検出している。十六面・薬王寺遺跡では、以前の調査で検出されたムラ遺構の一連のものを西端で調査した。

近世遺跡としては、八尾遺跡の第２次調査がある。ここでは、近世の河跡を検出し、江戸時代の河道復元に重要な成果を得た。



第１図　田原本町の遺跡と発掘調査地点

第１表　昭和63年度・平成元年度発掘調査一覧表

	遺跡名	調査次数	調査地	原因者	原因	調査期間	調査面積	時代	備考
1	唐古・鍵	第33次	田原本町鍵 262-1	町教育委員会 教育長	範囲確認	87.11.5～88.5.1	約300㎡	弥生	概要11 国庫補助事業
2	唐古・鍵	第36次	田原本町唐古 526-1	仲谷圭治	住宅建設	88.8.29～9.3	50㎡	中世	
3	唐古・鍵	第37次	田原本町唐古 126	田原本町長	老朽ため池整備	89.1.9～4.11	350㎡	弥生	
4	法貴寺斉宮前		〃 法貴寺 1747-4	庵谷雅俊	個人住宅新築	88.5.12～6.1	80㎡	中世	国庫補助事業
5	東井上大日塚		〃 東井上 149-1,548	町教育委員会 教育長	遺跡整備	88.9.15～10.29	110㎡	中世	
6	保津・宮古	第１次	〃 宮古 257-4,258-4	田村功	農業用倉庫建設	88.12.9～12.17	38㎡	古墳・中世・近世	
7	保津・宮古	第２次	〃 宮古 320-3	岩井正	農業用倉庫建設	88.5.8	22.5㎡	——	
8	阪手	第３次	〃 阪手 620,621-2	中川無線電機株式会社	物販店舗	88.5.8～5.12	280㎡	中世	
9	十六面・薬王寺	第５次	〃 十六面 278-1	田原本町長	公民館建設	89.5.19～6.25	100㎡	古墳・中世	
10	保津・宮古	第３次	〃 宮古 395-1,404-6	奈良市民生活協同組合	物流センター建設	89.7.4～9.27	約2300㎡	弥生・古墳・飛鳥	橿原考古学研究所と合同調査
11	羽子田	第３次	〃 新町 62-2,64-2	田原本町長	体育館建設	89.8.28～9.9	268㎡	古墳・中世	〃
12	小阪里中	第２次	〃小阪300-1 301-1･2 303-3	旭食品株式会社	配送センター新築	89.10.2～10.10	230㎡	弥生・奈良・中世	
13	唐古・鍵	第38次	〃 鍵 51-1 54-1,55-1	福西常彦	資材置場	89.10.14～10.31	72㎡	弥生・奈良・中世	
14	唐古・鍵	第39次	〃 鍵 40他	田原本町長	通学路改良工事	89.11.7～11.29	160㎡	弥生	
15	金剛寺	第２次	〃 金剛寺 地内	田原本町長	農道及び排水路整備	89.12.8～90.3.30	710㎡	古墳・中世・近世	
16	八尾	第１次	〃 八尾 830-1,831-3	林住建株式会社	宅地造成	90.1.18～2.17	185㎡	古墳・中世	
17	八尾	第２次	〃 八尾 地内	田原本町長	下水路改修	90.1.24～2.10	160㎡	近世	
18	阪手北	第２次	〃 阪手 348-1,349-1	田原本町長	保健センター建設	90.3.9～3.26	470㎡	中世・近世	
19	薬王寺南		〃 薬王寺 135-5	森田善敏	個人住宅新築	90.3.26～4.11	30㎡	古墳・中世	国庫補助事業

Ⅱ．調査した遺跡の概要

１．昭和63年度

(1). 唐古・鍵遺跡第33次調査

位置と環境　遺跡は標高47～49ｍの沖積地に立地する。調査地は遺跡の南端部にあたり、銅鐸鋳型など鋳造関連遺物が出土した第３次調査地から西へ約60ｍの地点である。

遺構の概要　長さ98ｍ、幅３ｍのトレンチ調査をおこない、４面の遺構面を確認した、弥生時代前期の遺構としては、木器貯蔵穴・土坑・大溝などがある。木器貯蔵穴からは長柄鋤や鍬の未成品が出土している。また、土坑（ＳＤ-120）からはノミに転用された銅矛片を検出している。大溝はトレンチの北端と南端で検出しており、前期末の環濠になる可能性がある。弥生時代中期の遺構は大きく中期前半と後半のものがある。いずれの時代も柱穴や井戸、土坑、大溝、小溝などがある。また、トレンチ南端では土坑墓を検出している。井戸などからは土器や石器、獣骨が多量に出土している。また、木器貯蔵穴からは、長柄鋤や着柄鋤、高杯の未成品が出土している。大溝は４条確認しているが、そのうち３条は環濠と思われ、南端の大溝（ＳＤ-109）は再掘削がおこなわれ後期まで機能している。弥生時代後期の遺構も中期と同じで、柱穴、井戸、土坑、大溝が中心となる。井戸では、大量の完形土器を包蔵し

調査地全景（南から）

たものがある（ＳＫ-125）。

遺物の概要　遺物はコンテナに約500箱という量である。土器が最も多く、その他石器・木器・骨角器の人為物、また、動物骨や種子類など自然遺物もある。土器では、土坑出土の良好な一括品が多い。弥生時代前期末から後期までの土器があり、編年上重要な位置を占めている。また、搬入土器では生駒西麓、紀伊、近江、伊勢湾岸地域のものが含まれている。木製品は農具などの未成品が良好な状態で出土している。農具には、広鍬、狭鍬、又鍬、長柄鋤、竪杵などがあり、それらの未成品は木器製作の過程をよく示している。容器・食膳具では四脚容器、方形容器、高杯、杓子などがある。なかでも高杯の未成品は連続した数個体分の製作工程のわかるものである。この他、木製戈や着柄の石小刀など類例の少ないものもある。石器は石庖丁などの磨製石器、石鏃や石剣・石槍などの打製石器がある。金属器としては、銅鏃３点、ノミに転用された細形銅矛がある。銅矛の時期は大和第Ⅱ-２様式で早い時期の流入品である。これらの他、卜骨や穂束なども出土している。

まとめ　今回の調査によって、ムラの南端の様相をおさえることができた。弥生時代前期末から居住区となり、中期以降、巨大なムラへと変遷する過程を環濠と土坑などのあり方から判断することができた。また、木製戈においては武器形祭器の問題、銅矛片については大和への流入経路、時期など重要な問題が今回の調査で提起された。

文献：『昭和62・63年度　唐古・鍵遺跡第32・33次発掘調査概報』1989

ＳＫ-124木器貯蔵穴 遺物出土状況

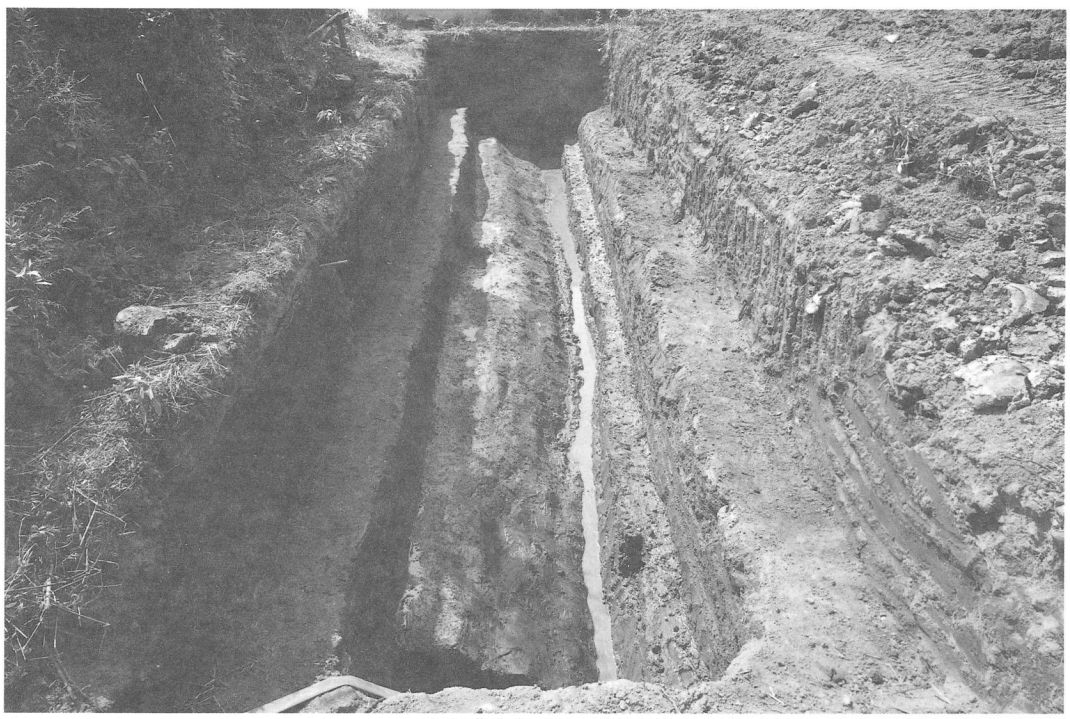
(2). 唐古・鍵遺跡第36次調査

位置と環境　遺跡は標高47～49ｍの沖積地に立地する。調査地は、遺跡の最北端である。これまでの北限の調査としては、第２・17・21・30次があり環濠帯地域にあたっている。この地域より北へ約100ｍの地点が第36次調査の地点である。

遺構の概要　東西に細長いトレンチに並行する形で大溝１条と、その大溝に直交する溝１条を検出した。大溝は南側肩のみ検出したため、規模はわからないが、推定幅６ｍ前後、深さ1.2ｍ以上を測るものである。大溝の下層からは多くの中世末期の土器や木製品が出土した。大溝に直交する溝は幅1.5ｍ、深さ0.6ｍを測るものである。遺物も少なく、溝肩部の流入土によって埋没しているようである。弥生時代の遺構は検出していない。

遺物の概要　遺物は大溝から出土した土器が主なもので、瓦質土器や羽釜など16世紀代のものが中心である。この他、木製品では小形の曲物箱などがある。これらに比して弥生時代の遺物はわずかで、石庖丁片などがある。

まとめ　今回の調査では弥生時代の遺構はなく、遺物もわずかなことから、唐古・鍵弥生ムラの範囲からはずれていることが判明した。このようなことから北限についてはほぼ確定できるようになった。これに対し、中世の遺構・遺物はここが居住区であることを示している。この遺構（大溝）の性格については、推定ではあるが周辺に寺ノ前・寺西などの小字名があり、寺関係の遺構と考えられる。



中世大溝完掘状況（東から）

(3). 唐古・鍵遺跡第37次調査

位置と環境　遺跡は標高47～49ｍの沖積地に立地する。調査地は唐古池内部で、西側提防に沿う形で、周辺の調査には第１・18・23・26次調査（いずれも池内部）がある。この付近は唐古・鍵弥生ムラの居住区から環濠帯にあたる部分である。

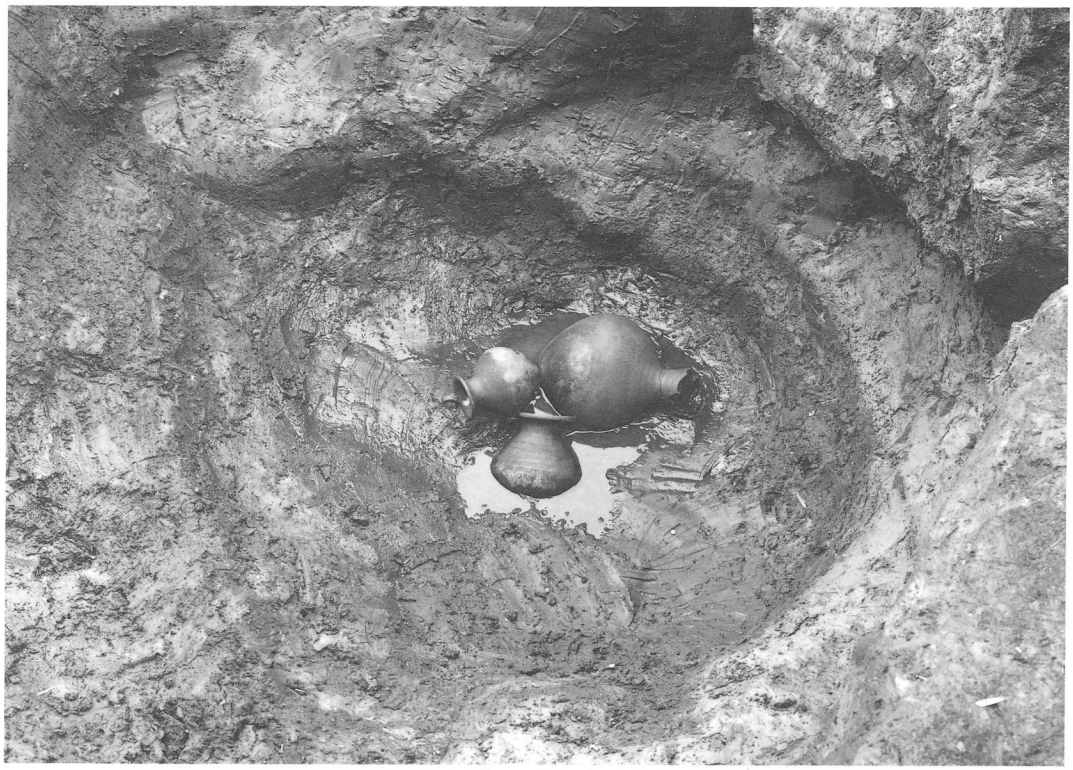
遺構の概要　この調査は池の西南側を南北160ｍ、東西22ｍにわたって、４つのトレンチを設け、おこなった。この結果、弥生時代全期間の遺構と少数の古墳時代の遺構を検出した。弥生時代前期では、調査区の南半で多数の木器貯蔵穴とその北側で２条の大溝（ＳＤ-2201・ＳＤ-2202）を検出した。いずれの溝も前期後半から中期初頭のものである。また調査区の南端では大きな河状の砂層堆積層を確認しており、弥生時代の前期前半頃のものである。第１次調査の南方砂層に対応するものと考えられる。弥生時代中期の遺構は最も多く、土坑・井戸・柱穴・大溝など種々な遺構がある。特に井戸では大形のものがあり（ＳＫ-2116・ＳＫ-2130・ＳＫ-2139）、供献土器など各種遺物を豊富に含んでいた。土坑のなかには木器貯蔵穴もわずかにある。大溝はこれら各種遺構の北端に掘削されているもので、居住区の一番内側にあたる環濠である。調査区の南端では、中期末頃の砂層堆積の落ち込み状遺構を検出しているが、その最終埋没は古墳時代の後期頃と思われる。弥生時代後期は中期と同様の様相を示しているが、特に注目されるのは、豊富な遺物を包含している大形井戸である（ＳＫ

調査地全景（南から）

-2103・ＳＫ-2121・ＳＫ-2122)。この他、北端部分では環濠になる２条の大溝を検出している。

遺物の概要　大量の弥生土器の他、各種の遺物が出土している。弥生中期以降の井戸からは供献土器等良好な一括資料が多い。ＳＫ-2130では広口壺・大形細頸壺・水差形土器・高杯など完形品が供献されていた。木製品では、広鍬や丸鍬、長柄鋤の未成品及び製品、竪杵の完存品２点（ＳＫ-2114)、木製穂摘具（ＳＫ-2103）などの農具、また、ＳＫ-2103からは丹塗楯や弓が出土している。石器類で注目されるのは、サヌカイトの原石が６点まとまって出土したことである。また、ＳＫ-2114ではサヌカイト剝片が土坑上部に多量投棄されていた。これらのほか、重要なものとして、ＳＫ-2116とＳＫ-2130から出土した卜骨やＳＤ-2202から出土した木製牙を差し込んだもので穿孔されたイノシシの下顎がある。穿孔されたイノシシの下顎はＳＫ-2114やＳＸ-4201からも出土している。植物遺体では、ＳＫ-2116やＳＫ-2139から多量に出土したモミ殻がある。

まとめ　今回の調査では多量の遺構・遺物を検出した。これはこの調査区が遺跡内でも最も重要な地区であることを示している。遺構では例を見ないほど豊富に多種類の遺物を含んでいるものがあり、良好な資料となる。また、遺物においても弥生時代の一般的なものはほとんど網羅している。



ＳＫ-2130井戸 土器出土状況

(4). 法貴寺斉宮前遺跡

位置と環境　遺跡は標高50ｍ前後の沖積地に立地する。江戸時代には斉宮神社があり、その前身は斉宮寺である。本地はその寺域内と推定される。初瀬川の西岸に位置し、周辺には法貴寺舞ノ庄遺跡、法貴寺丹波山遺跡などがある。いずれも中・近世を中心とする遺跡である。

遺構の概要　平安時代から室町時代にかけての柱穴・土坑・溝等を検出した。柱穴は径0.3ｍ前後のもので、根石を伴うものもある。また、柱穴は検出されず、根石のみのものもあり総数50基以上になる。柱穴が多く検出されているが、調査面積が狭く建物については不明である。土坑には瓦器椀の出土するものもある。ＳＫ-03は径1.9ｍ、深さ0.7ｍを測る井戸である。この井戸から完形瓦器椀と枡と考えられる木製品が出土した。溝では大溝のコーナー外側部分を検出したため、規模はわからないが幅５ｍ程であろう。溝のコーナー外側肩部には杭例がみられた。小溝は幅0.2～0.5ｍのものが東西あるいは南北方向に走向し、建物を区画するものであろう。

遺物の概要　主要な遺物は平安時代から室町時代にかけての土器類で、瓦器椀や土師器である。石製品では滑石製の石鍋片も出土している。木製品では外側で17㎝前後を計る方形の枡と思われるものがある。時期は12Ｃ後半である。

まとめ　建物跡については不明な点が多く、斉宮寺と結びつける資料は得ていない。しかし、遺構密度が高く、出土遺物のなかに枡と思われる重要品があることから、重要な性格を有する遺跡といえる。

調査地全景（南東から）

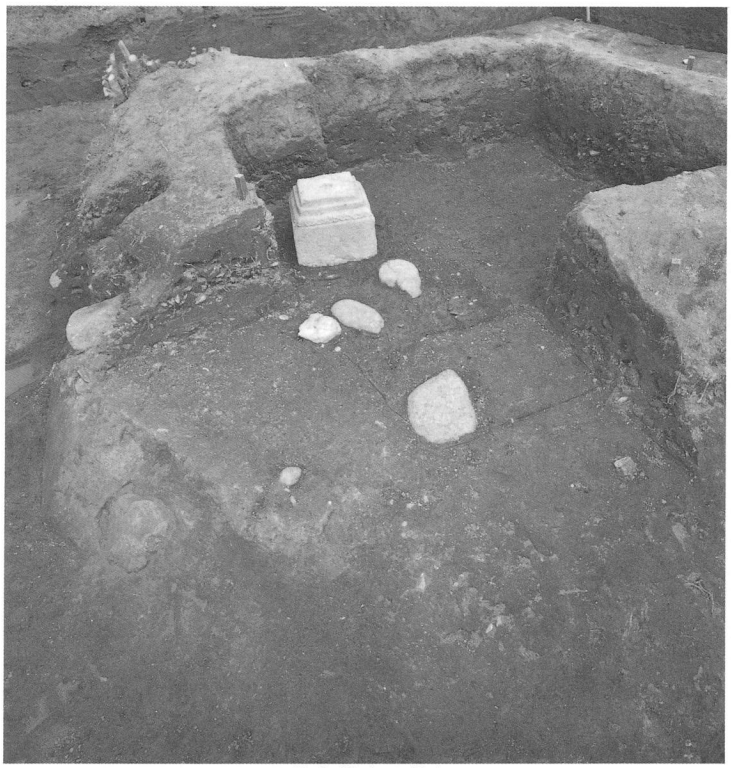
(5). 東井上大日塚遺跡

位置と環境　標高53ｍの沖積地に立地する塔婆堂と考えられる遺跡で、保存整備のための事前調査をおこなった。『大和国古墳墓取調査書』に記載されており、地元では「大日」などと呼ばれていた。大日塚の北東部には弥生時代前期の東井上遺跡がある。

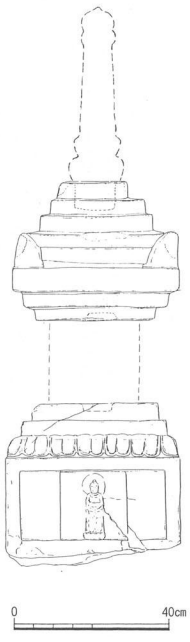
遺跡の概要　現状では塚の周辺に客土がなされ、0.5ｍあまり塚の頂部が見えていただけで、頂部には宝篋印塔の笠部のみおかれていた。盛土は削平のため、規模はわからないが、推定東西６ｍ、南北５ｍほどで、盛土は0.7ｍであった。盛土は瓦や礫層を間層として整地し、その上面で宝篋印塔の基礎が原位置で検出された。この基礎の南側では、十数枚の土師器小皿が１ｍ程の範囲に散在していた。時期は室町時代後期である。その後、この盛土の上に江戸時代の盛土がなされた。この他、塚の北西部では土坑墓１基確認し、南側では平安時代頃の東西方向の幅2ｍの溝を検出した。土坑墓は盛土の下面より検出している。

遺物の概要　遺物の大半は盛土内から出土した瓦である。鬼瓦・軒平・軒丸瓦などがあり、なかには「請国」の文字や文様瓦も含まれている。この他、土師器小皿や瓦器椀など中世土器が出土している。

まとめ　調査では盛土の上面に原位置を保った宝篋印塔の基礎と供献された土師小皿を検出することができた。奈良盆地内では数少い発掘例となった。



宝篋印塔出土状況



第２図　宝篋印塔実測図

(6). 保津（ほづ）・宮古（みやこ）遺跡第１次調査

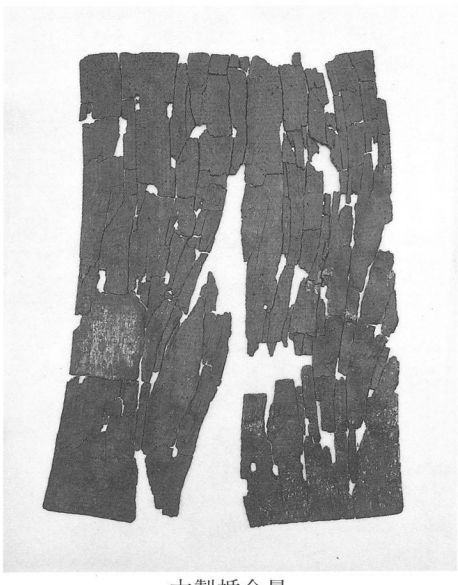
位置と環境　標高45～48ｍの沖積地に立地する。弥生時代から古墳時代にかけての大遺跡であり、また、その一部では中世寺院も推定される複合遺跡である。周辺には八尾遺跡や羽子田遺跡がある。

遺跡の概要　調査では古墳時代の井戸と小溝、中世の井戸２基、近世の井戸の１基を確認した。古墳時代の井戸は（ＳＫ-101）は径2.1ｍ、深さ２ｍを測る大形のものである。この井戸には木製の横槌や着柄鋤、楯、ざるが投棄されていた。小溝は幅1.5ｍ、深さ0.2ｍ前後の小規模なものである。井戸・小溝ともに古墳時代初頭のものである。中世の井戸は一つが径0.7ｍ、深さ１ｍを測るものである。近世の井戸は径0.9ｍ、深さ３ｍを測る。井戸内には多量の瓦が投棄されていた。

遺物の概要　遺物は古墳時代初頭と近世の井戸から出土した遺物である。前者では木製の槌やナスビ形の着柄鋤２点、楯などの木製品がある。いずれも割れているが、完形に復元できるものである。楯はオニグルミ製で、本来湾曲していたと思われるが土圧の為、平担となっている。現長98㎝、現幅65㎝を測る。楯の全面には0.8㎝間隔の小孔が穿たれ、中央の上下対称の位置で凸帯状に小孔の間隔が5.2㎝と広くなる。顔料や飾物等はみられない。近世の井戸からは文字瓦が１点出土している。

まとめ　小規模な調査であるが、本遺跡初めての発掘でその一端が明らかにされた。古墳時代以降が中心となることから、弥生時代のムラはここより南側にあたると思われる。出土した楯は全容の判明している例としては古いもので重要な成果となった。

ＳＫ-101井戸 楯・鋤出土状況



木製楯全景

2．平成元年度

(7). 保津・宮古遺跡第２次調査

位置と環境　遺跡は標高45～48ｍの沖積地に立地する。第１次調査地の北西200ｍの地点で、本遺跡の北部地域にあたる。

遺構・遺物の概要　調査は幅３ｍ×長さ7.5ｍの東西に長いトレンチでおこなったが、遺構は全く検出されず、水田耕土層及び床土層から若干の陶磁器を検出したのみであった。遺構面に相等する土層は黄褐色粘質土層で、水田表面から0.55ｍ下で標高45.25ｍとなる。

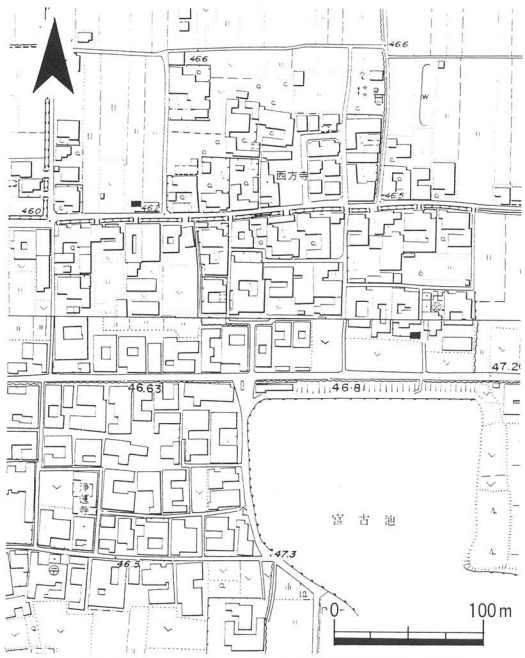
まとめ　調査地は小規模であるが、保津・宮古遺跡の居住区からははずれていると思われる。

(8). 阪手遺跡第３次調査

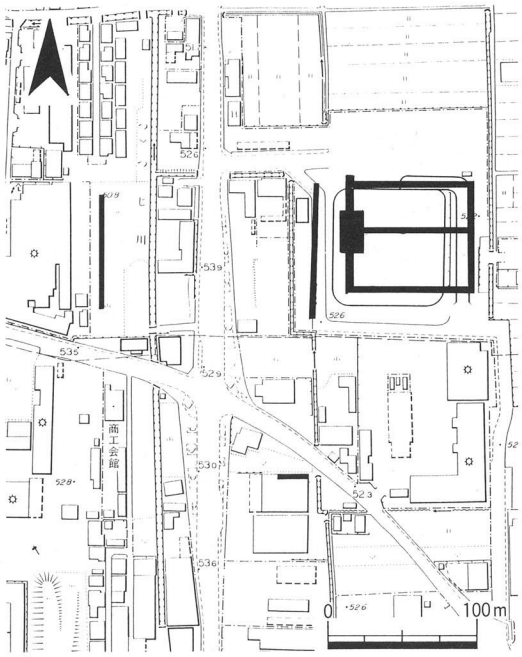
位置と環境　遺跡は標高51ｍの沖積地に立地する。第１次調査の西100ｍ地点で、この調査では弥生時代後期の溝としがらみを検出している。当地はその遺跡の西端にあたる。

遺構・遺物の概要　調査は幅4ｍ×長さ70ｍの南北のトレンチを設定し、二段掘りとしたため、実質調査は３ｍ×65ｍとなった。調査では中世の素掘り小溝38条と河跡を検出した。小溝は東西・南北方向に走向するものがある。河跡は幅５ｍ、深さ１ｍ以上で、時期は不明である。遺物は小溝から瓦器、土師器が出土しているが、小片である。

まとめ　弥生時代の遺構等は検出されなかったので、本地はほぼ西端とみなされるであろう。



第３図　保津・宮古遺跡調査位置図



第４図　阪手遺跡調査位置図

(9). 十六面・薬王寺遺跡第５次調査

位置と環境　標高47ｍ前後の沖積地に立地する。これまでの調査では、中世の集落跡、水田遺構、古墳時代の諸遺構が検出されており、本地は遺跡の西南にあたる。

遺構の概要　古墳時代中～後期の柱穴・井戸・落ち込み状の凹地が検出されており、柱穴の一つには完形の小形甕と琥珀製の棗玉が出土したものがある。井戸は径約2.4ｍ、深さ2.2ｍを測るもので、供献土器として完形の甕が出土した。奈良時代の小土坑２基も検出されている。また、中世の時期には７基の井戸が検出されており、そのうち２基には曲物の底板をぬいたものを井戸枠として転用していた。この他、２棟分の建物跡を検出したが規模については不明である。

遺物の概要　遺物は古墳時代と中世のものが多い。古墳時代の遺物としては、前述の井戸から土器の他、製塩土器、長さ１ｍもある縄、紡錘車、有孔円盤、ヒョウタンなどが出土している。この他、ガラスの小玉や滑石の管玉などもある。中世の遺物は瓦器椀などの土器類の他、曲物や砥石が出土している。

まとめ　小規模な調査であったが、古墳時代・奈良時代・中世の三時期の遺構の存在が明らかにされた。これは第１次調査と同様の内容であったが、遺構密度が高いことから広範囲に拡がる大規模遺跡であることが実証された。

調査地全景（西から）

⑽. 保津・宮古遺跡第３次調査

位置と環境　遺跡は標高45～48ｍの沖積地に立地する。調査地は保津・宮古遺跡の範囲から北西へはずれた位置にあったが、大規模開発のために遺跡有無確認踏査をおこなった結果、遺跡であることが判明した。本地は筋違道（太子道）から西へ約150ｍ、黒田遺跡から南へ100ｍの地点である。

遺構の概要　弥生時代中期から後期の河道と溝１条、古墳時代前期の小溝２条と土坑、飛鳥・奈良時代の掘立柱建物１棟を検出した。河道は当初、南方から西方へ蛇行していたが、やがて南から北西方向に大きく湾曲しながら流れるようになる。北西走向時には、砂層堆積があり中期後半頃の土器が出土している。弥生時代後期には小規模な流路状になり、溝と流路の合流部分にはしがらみがつくられている。古墳時代前期の小溝は南側で合流しているが、北側では並行して２条掘削されている。飛鳥・奈良時代の掘立柱建物は１棟で、東西二間、南北２間分以上で南北棟、総柱の建物と推定される。

遺物の概要　出土遺物は弥生土器と古式土師器が中心である。弥生土器は中・後が主である。土師器には生駒西麓産や吉備系のものがある。木製品には田舟や丸鍬の未成品、高杯、大形容器などが河道から出土している。また、古墳時代の土坑からは穂摘み具状の木製品が出土している。

まとめ　今回の調査によって保津・宮古遺跡の範囲は北西方向に拡がることが判明した。遺跡の性格は農耕地周辺部である可能性が高い。また、古墳時代の遺構はここより西方へ拡がるようである。飛鳥・奈良時代の建物跡は東隣接地の第４次調査検出の一連の遺構群と考えられ、有力な氏族にかかわる集落あるいは公的施設の一部が推定される。

調査地全景（西から）

(11). 羽子田（はこだ）遺跡第３次調査

位置と環境　遺跡は標高48ｍ前後の沖積地に立地する。本地は周知の遺跡として認識されていなかったが、体育館新築工事に伴う試掘調査によって古墳の存在が判明した。調査地の南100ｍには牛等の埴輪が出土した羽子田遺跡（古墳）がある。

遺構の概要　調査では古墳の周濠と考えられるものを確認した。周濠は円弧を描いており、その南東部分にあたっている。復元すれば、約40ｍ程の円形を呈すがその規模から前方後円墳の後円部にあたると思われる。周濠の幅は11.5ｍ、深さ0.6ｍを測る。墳丘は削平のため、全く存在しないが､墳丘裾側の周濠内部には墳丘から崩れ落ちた円筒埴輪が流れ込んでいた。他に古墳時代前期の土坑が３基検出された。

遺物の概要　主要な遺物には周濠内部から出土した埴輪がある。円筒埴輪は４世紀後半のもので、方形・円形の透孔が穿たれている。なかには鰭付円筒埴輪があり、朱彩を施している。これらの埴輪は古墳に伴うものであるが、周濠の上層では古墳時代後期の土器が出土している。また、墳丘上面の包含層では金環を１個検出した。この他、古墳時代前期の土器も出土している。

まとめ　４世紀後半の後円部径40ｍの前方後円墳を検出した。盆地低地部での前期古墳例は少なく、また、周辺部に６世紀の牛形埴輪の出土地点もあることから、この地域に古墳群が形成されていたと考えられ、この調査の意義は大きい。

▲円筒埴輪出土状況

◀調査地全景（左が北）

⑿. 小阪里中遺跡第２次調査

位置と環境　遺跡は標高49ｍ前後の沖積地に立地する。この遺跡は第１次調査によって、弥生時代中・後期の遺構、古墳時代中期の古墳１基と中・近世の屋敷跡を確認している。本遺跡の北方500ｍには唐古・鍵遺跡、南西方600ｍには羽子田遺跡が所在している。また、寺川を挟んだ西岸には式内社の鏡作神社がある。

遺構の概要　堆積層は第Ⅰ層（木日耕土層）から第Ⅴ層（淡灰褐色層：ベース層）まであり、単純な土層堆積層を示す。第Ⅴ層まで0.8ｍの堆積となる。第Ⅴ層上面で、全ての遺構を検出しており、全面に中世の素掘小溝が走向する。他の遺構はこれらの耕作と削平によって削られ、包含層を形成しているが、わずかに奈良時代の土坑と弥生時代後期の溝と土坑が残っていた。弥生時代の溝は幅0.7～0.8ｍ、深さ0.2ｍでほぼ東西方向に走向している。

遺物の概要　遺物の大半は削平をうけた包含層内から出土している。土器は、弥生時代後期から古墳時代後期、奈良時代～鎌倉時代にかけてのものが主である。これらの他、瓦などがある。

まとめ　第２次調査は、第１次調査で確認した遺構の拡がりを確認する上で重要であったが、中世の耕作による削平のため、遺構の大半が破壊されていた。わずかであるが、弥生時代の遺構はこの周辺に散在的に存在すること、また、新たに奈良時代の遺構があることの２点を把握することができた。奈良時代の遺構は鏡作神社が近くにある点からも注目される。

調査地全景（南から）

⑬. 唐古・鍵遺跡第38次調査

位置と環境　標高47～49ｍの沖積地に立地する。調査地は、唐古・鍵弥生ムラの西区域にあたり、第19次調査と第22次調査地の中間地点である。また、中世唐古氏の居館跡の環濠部分にもあたる。

遺構の概要　検出された遺構は、大きく三面に分かれる。第Ⅰ面は中世の遺構で、素掘小溝と大溝２条である。大溝はトレンチの東・西端で検出された。東端の大溝（ＳＤ-51）は環濠になるもので外周をめぐる。西端の大溝（ＳＤ-52）は一辺30ｍ前後の方形に区画する溝と考えられる。第Ⅱ面は弥生時代中期から古墳時代初頭の土坑群である。主な土坑としては、第Ⅲ様式と布留式の井戸がある。後者には、壺や甕が供献されていた。第Ⅲ面では弥生時代前期の土坑群と溝が検出されている。これらの土坑では、広鍬や高杯の未成品、竪杵などの木製品が出土しており、木器貯蔵穴群である。また、溝は規模等不明だが、竪杵や鍬の破損品、獣骨、土器等多量に出土している。

遺物の概要　小面積の発掘であったが、多量の弥生土器が出土した。注目される土器としては、大和第Ⅰ様式の木ノ葉文様の彩文土器や大和第Ⅱ様式の条痕文土器がある。木製品も多く、広鍬や竪杵、高杯、手斧柄などがある。この他、注目されるものにイノシシ下顎の穿孔例がある。また、ＳＤ-51からは古墳時代の混入品である滑石製の子持勾玉や蓋などの形象埴輪、円筒埴輪が出土している。

まとめ　小規模な調査面積に対し、多量の遺物の出土と遺構密度の高さはこの調査地点が重要な地域であることを示している。また、古墳時代の子持勾玉や埴輪の出土は、この付近に壊された古墳の存在が窺えよう。

調査地全景（北から）

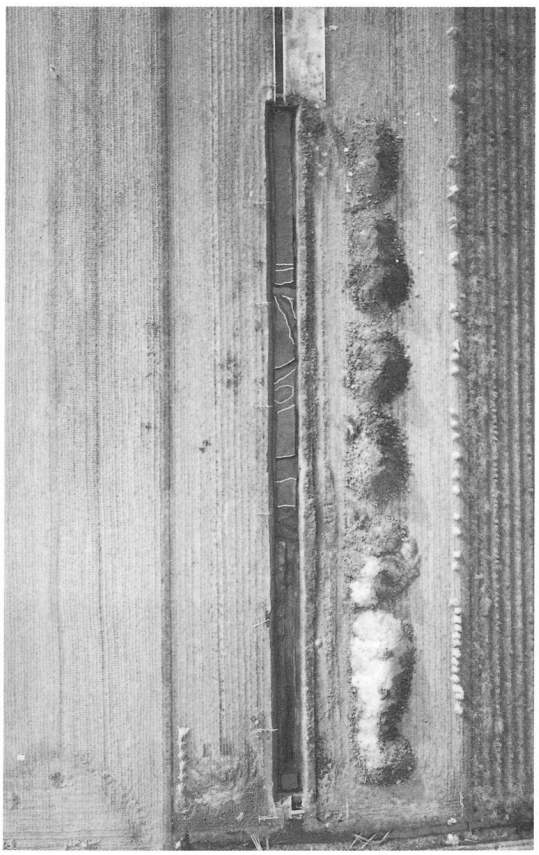
⑭. 唐古・鍵遺跡第39次調査

位置と環境　標高47～49ｍの沖積地に立地する。調査地は遺跡の南端部で、第33次調査地の南100ｍの地点である。唐古・鍵弥生ムラの範囲では、環濠帯の外側にあたる。

遺構の概要　検出された遺構としては、河跡と溝、落ち込み状遺構などがある。河跡はトレンチの東半分で検出されたもので、第Ⅲ様式頃から第Ⅳ様式頃にかけて流れていたもので、最終埋没は弥生時代後期になる。河幅は不明だが28ｍ以上で、推定すれば50ｍ前後のものであろう。深さはあまりなく２ｍ程である。他には溝があるが、小規模なものである。落ち込み状遺構は人為的なものでなく、河跡付近の凹地ともいえるものである。

遺物の概要　遺物は少ない。河跡から出土したものが大半で、弥生土器が中心である。河跡からは第Ⅲ様式の鉢が半完形で出土している。

まとめ　この調査で検出された河跡は、唐古・鍵ムラの南端を示しているものと考えられ、居住区・環濠帯・河跡の順で外部まで構成されている。したがって、ムラ外部の様子を把握するうえで重要な調査となった。



▲調査地全景（右が北）

▲調査地全景（東から）

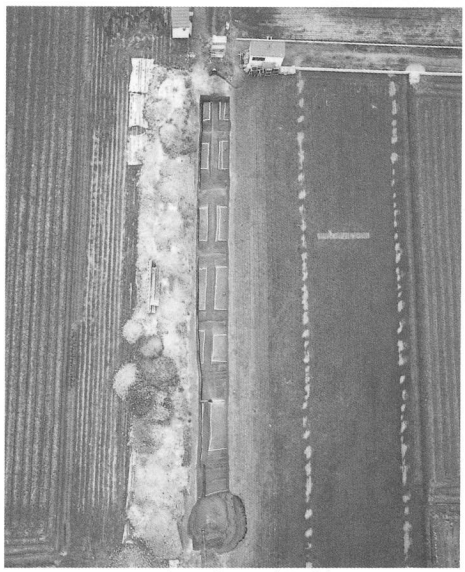
(15). 金剛寺遺跡第２次調査

位置と環境　標高46ｍの沖積地に立地し、曽我川と飛鳥川の挟まれたところに立地する。金剛寺遺跡は中世金剛寺氏がかまえていた金剛寺城と推定される遺跡で、第１次調査では内部を区画する大溝と橋を検出した。第２次調査地は、城の推定地の東辺部にあたる。

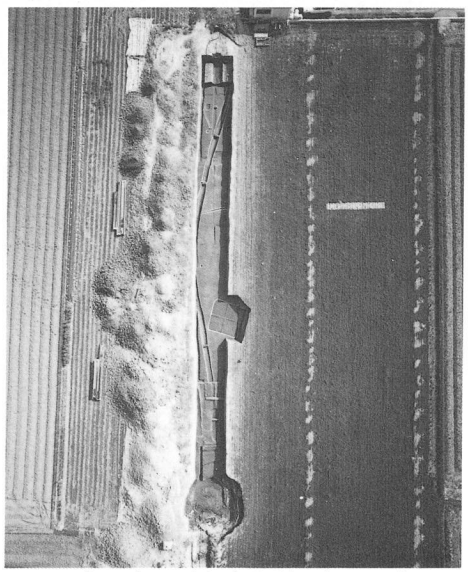
遺構の概要　第１トレンチ（北側）と第２トレンチ（南側）があるが、第２トレンチは期間的に調査不可能となった。第１トレンチでは、４面の遺構面を確認した。第Ⅰ遺構面は近世の遺構で、素掘溝と小溝（現水路の下層）である。第Ⅱ遺構面では、東西方向に走向する大溝を６条検出した。この大溝群はおよそ幅３～６ｍで、深さ0.8ｍを測る。これらの大溝は３ｍから６ｍぐらいの間隔で掘削されており、いずれもよく似た溝の形態と推積状況を示している。時期は中世後半から近世にかけてのものであろう。第Ⅲ遺構面では、奈良から平安時代にかけての小溝と河跡を検出した。第Ⅳ遺構面では、古墳時代初頭の住居跡と溝・土坑を検出した。住居跡は一棟で、一辺3.9ｍ～４ｍの方形プランを呈している。溝は幅0.8ｍで延長40ｍにわたって孤状を描きながら走向している。

遺物の概要　主な遺物としては古墳時代前期と中・近世の土器である。他にサヌカイト製の火打ち石、管玉などもある。注目されるものとして、奈良時代頃の須恵器の硯片がある。

まとめ　今回の調査で検出された河跡は遺跡の北限を示すと考えられ、太政官符案　色川栄山寺文書（平安遺文2-333号）の記載に合致するものである。また、奈良時代の硯の出土は役所等公的なものの存在が考えられ、平安時代の栄山寺領になる以前から何らかの施設があったと思われる。古墳時代の住居跡と溝は、盆地低地部で貴重な一例となった。



調査地全景（中世）



調査地全景（古墳時代）（下が北）

⑯. 八尾遺跡第１次調査

位置と環境　標高48ｍ前後の沖積地に立地する。調査地の東50ｍには銅鏡出土地があり、古墳と推定される。当地の東南方400ｍには羽子田２号墳、西方200ｍには保津・宮古遺跡が拡がっている。

遺構の概要　調査地は水田耕土層と床土層が除去され、１ｍ程の客土層がみられた。トレンチ全面は、古墳時代後期の強い粘性の灰色粘土層に覆われている。この土層の下から、古墳時代前期の土坑（井戸）や時期不明の土坑や溝を検出している。古墳時代前期の井戸は２基で、ＳＫ-102は一辺0.9～１ｍの不整方形プラン、ＳＫ-105は長軸1.5ｍ、短軸1.3ｍの不整円形プランである。ＳＫ-105は坑底から壺と甕が各１点出土した。時期不明の遺構には一辺1.4～1.5ｍの方形プランの土坑（ＳＫ-101）や溝幅２ｍ、深さ１ｍの溝などがある。

遺物の概要　遺物は古墳時代前期から後期の土器が主なものである。特にＳＫ-105から出土した小形の壺と甕は完形品で井戸への供献土器として使われたものである。この他、包含層から凹基式の小石鏃が出土しており、注目される。

まとめ　調査では、古墳を確認することを目的としたが古墳と認定できるものは得られなかった。しかし、古墳時代を中心とする集落関連の遺構が検出されたことにより、八尾池を含めたこの地域一帯にこの時期の集落の存在が明らかにされた。

▲調査地全景（北から）

ＳＫ-105井戸　土器出土状況▶

⑰. 八尾遺跡第２次調査

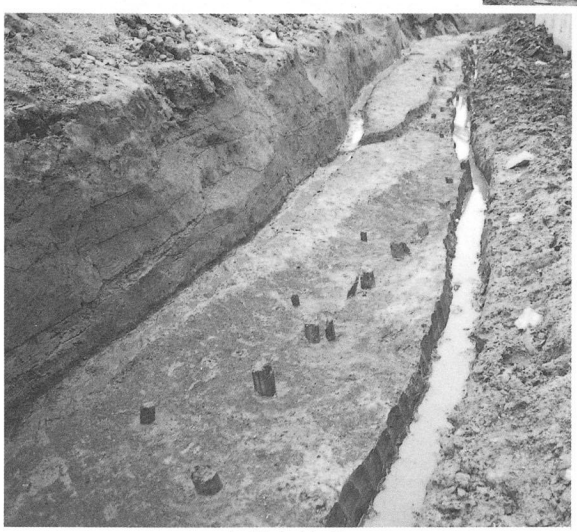
位置と環境　標高48ｍ前後の沖積地である。第１次調査地点の東方100ｍで、水路部分の調査であった。このあたり一帯は条里が乱れており、小字名には「池ノ内」などがある。

遺構の概要　調査では、トレンチ全面が江戸時代の河跡であることが判明した。河跡の東岸部分であって、部分的に深くなっているところもあるが全体は砂質土層によって埋没している。岸部分では一列あるいは二列に並ぶ杭が検出された。また、ほぼ同時期の井戸と思われるものが２基みつかっている。この他、古墳時代と考えられる小溝（幅0.8ｍ）と土坑（径２ｍ前後）が各１基検出された。

遺物の概要　遺物は江戸時代の河跡から多量に出土している。江戸時代の陶磁器などの土器類が中心であるが、これらに混在して古墳時代前期～後期、奈良時代の土器が含まれている。また、円筒埴輪や形象らしき埴輪も少しであるが出土している。

まとめ　今回の調査では江戸時代の河跡が検出されたが、これは条里の乱れの方向に合致するもので、条里の乱れが河跡によるものであることが判明した。しかし、河幅や河の上限については不明な点がみられる。河川内に古墳時代の遺物を多く含んでいるのは、この上流約200ｍに羽子田古墳群があり、これらの遺物と推察される。

調査地全景（北から）



河跡と杭列

⑱. 阪手遺跡第２次調査

位置と環境　標高49ｍ前後の沖積地に立地する。鎌倉時代の散布地であり、南側隣接地の第１次調査では時期不明（江戸時代頃か）の河跡を検出している。

遺構の概要　遺跡の堆積土層は、第Ⅰ層（水田耕土層）、第Ⅱ層（水田床土層）、第Ⅲ層（灰褐色粗砂～細砂層：ベース層）、第Ⅳ層（灰色粘土層）、第Ⅴ層（黒色粘土層）となる。遺構は第Ⅲ層上面で、中世の素掘小溝と土坑２基、河跡を確認した。土坑は径1.8ｍ、深さ0.7ｍの円形プランのもの（ＳＫ-01）と長辺3.5ｍ、短辺1.5ｍ、深さ0.7ｍの長方形プランのもの（ＳＫ-02）がある。いずれも詳細な時期決定はできないが、中世のものであろう。ＳＫ-01は井戸と思われる。河跡は推定幅４ｍ、深さ１ｍを測る小規模なものである。この河跡は南側隣地の第１次調査時のものにつながる。これは洪水に伴うものであろう。

遺物の概要　遺物は少なく、素掘小溝や土坑から出土した中世の土器類と河跡から出土した棒状の木製品のみである。

まとめ　調査で検出された土坑２基が主な遺構であり、遺構の希薄な地域であろう。したがって遺跡の本体は現阪手集落及び調査地の東側であろう。また河跡は洪水にともなうものと思われ、中世以降に遺跡の南側を中心に洪水があったことが想定されよう。

調査地全景（北から）

⑲. 薬王寺南遺跡

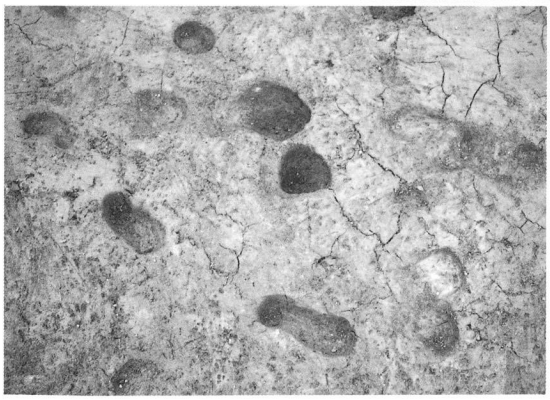
位置と環境　標高50ｍ前後の沖積地に立地する。遺跡は弥生時代から平安時代の散布地として知られており、また、筋違道（太子道）の推定復元線もこの付近では斜めの地割線として残っている。東側隣地の立会調査では古墳時代中期の包含層と中世の建物跡を確認している。

遺構の概要　調査面積は小規模で約30㎡である。堆積層は、第Ⅰ層（水田耕土層）から第Ⅸ層（暗緑灰色粘土層：ベース層）まであり、約1.3ｍの堆積となる。主な遺構としては、第Ⅴ層上面で検出された洪水堆積層（第Ⅳ層）と、この洪水堆積層を除去して検出された足跡らしき小穴がある。足跡らしき小穴は南西から北東方向についており、長さ18㎝前後のものである。第Ⅶ層上面では、溝らしき落ち込みを検出し、土器や木製品が出土している。これらの遺構はいずれも古墳時代中期のものである。

遺物の概要　遺物としては、須恵器・土師器等土器類が主である。これらの他には、木製品があり、先端に抉りを入れた棒状のもので織具の可能性がある。自然遺物には落ち込みから検出されたモモの種子がある。

まとめ　太子道に関係する遺構はこの調査では確認されなかったが、古墳時代中期の遺構・遺物を検出し、この周辺に集落があることが確実になった。集落の本体は調査地の南側にある薬王寺池あたりであろう。今後、大規模な集落跡である十六面・薬王寺遺跡との関連が注目される。

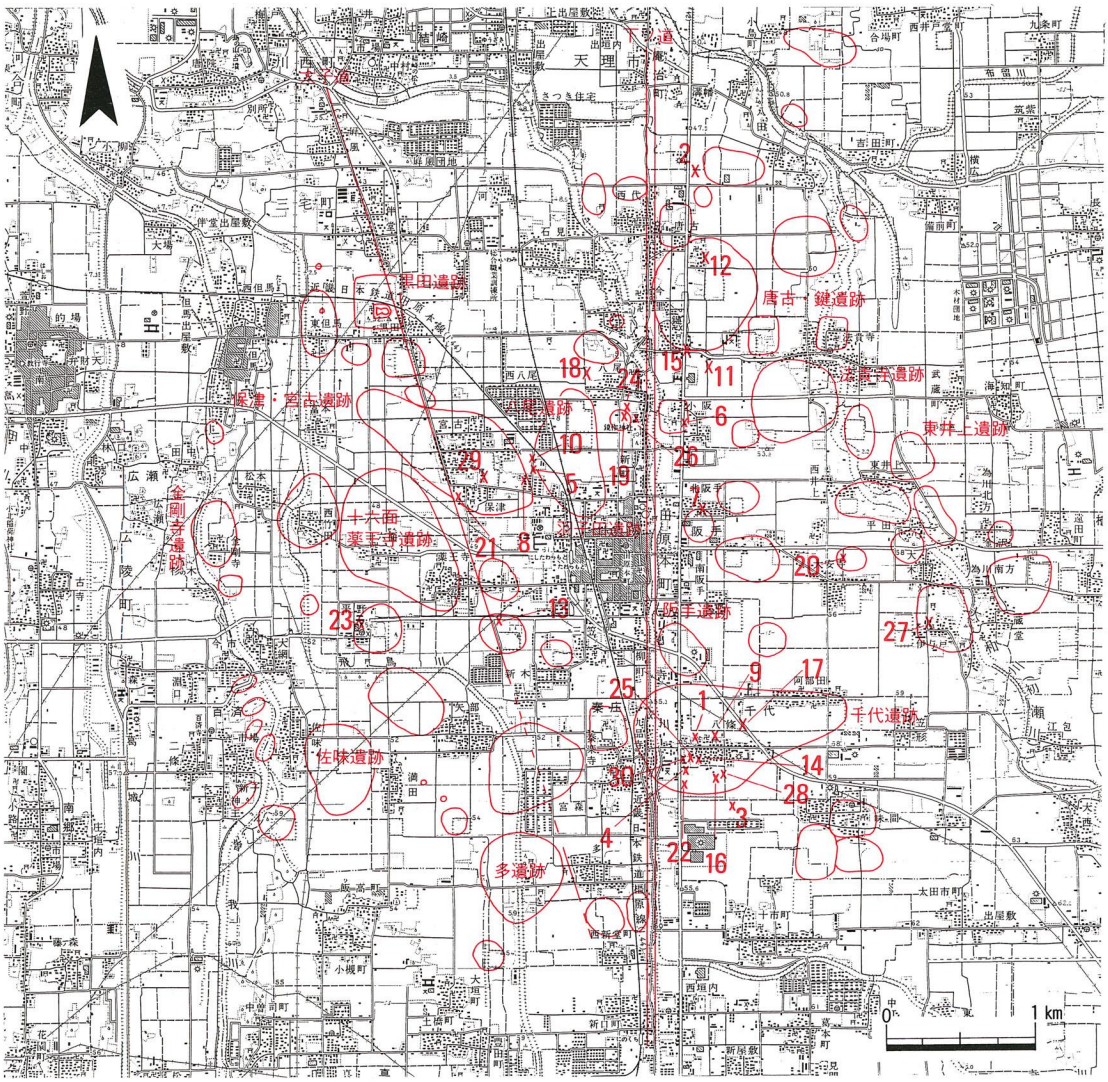
▲調査地全景（北から）



◀足跡検出状況

Ⅲ．試掘調査・立会調査の概要

試掘調査と立会調査は、昭和63年と平成元年度の２年で計30件にのぼる（第２表）。特に集中しているのは、田原本町千代付近と八尾付近でいずれも田原本町の市街化が進んで地域である。千代遺跡はでは11件を数えるが、遺物包含層にあたっているものはなく遺跡の実態は把握できない。成果のみられたものは、薬王寺南遺跡（13）と伊与戸遺跡（27）で遺物包含層がみられた。前者では古墳時代後期と中世で遺跡の範囲が北側へ拡がった。後者は小字が門前と示すとおり中世寺院の存在が予想できるものであり、南側へ範囲は拡がることとなった。



第５図　田原本町の遺跡と試掘調査・立会調査地点

第２表　昭和63年度・平成元年度試堀調査・立会調査一覧表

番号	遺跡名	調査地	原因者	工事の目的	進達番号(田教文)	進達日	調査日	内　容
1	千代遺跡	田原本町千代1160	吉井淳郎	物置・倉	2	63.4.4	63.7.11	整地土下に明治初期の火災層あるが、遺物包含層等は確認できず。
2	清水風遺跡	田原本町唐古290,291,292	植田司都男	青空駐車場	47	63.6.9	63.7.11	擁壁部分で立会するが、遺構面はさらに下と思われる。
3	千代遺跡	田原本町千代135-1	明日香運送株式会社	倉庫建設	70	63.7.20	63.10.27 63.12.16	掘削部分では遺物等はみられない。
4	千代遺跡	田原本町千代291-1,293-1 295-1	橋本晴之	店舗建設	89	63.8.18	63.10.4	水田耕土下に10㎝の粗砂層があり古代～中世の堆積と思われる。その直下に青灰色シルトウがあるが遺構・遺物はない。
5	八尾遺跡	田原本町新町197-1	田村周治	宅地造成・共同住宅	90	63.8.22	63.11.2	1×4ｍの試掘坑を深さ2.2ｍまで掘削・遺構・遺物はないが深さ1.2ｍ（旧水田床土下）で遺構面の可能性がある。
6	小阪里中遺跡	田原本町小阪228-4	谷口猛	事務所付住宅建設	99	63.8.23	63.9.27	コンクリート杭打ち込みのため不明
7	阪手北遺跡	田原本町阪手282	松村三郎	倉庫・納屋	111	63.9.19	63.10.31	基礎掘削部分(約１ｍ)では、畑地らしき土層で遺物をわずかに含む。中・近世の土層か。
8	保津・宮古遺跡	田原本町新町189-3	川端ヤエ子	住宅	112	63.9.24	1.1.10 1.3.22	現地表から1.2ｍの掘削遺物等はみられない。
9	千代遺跡	田原本町千代1156	五井秀一	住宅（増築）	127	63.10.24	1.1.27	掘削は盛土内のため不明
10	八尾遺跡	田原本町新町126-1	吉川清勝	青空駐車場	148	63.11.11	1.11.10	客土0.6ｍ、水田耕土層等0.7ｍあり、その下に黒褐色粘土質土層（0.3ｍ）がある。遺物はないが、有機質で遺構かもしれない。
11	唐古・鍵遺跡	田原本町鍵40他	田原本町長	水路及び通学路	151	63.11.18	63.11.17	掘削部分で黒褐色粘質土層の落ち込みを確認遺物を含まない。
12	唐古・鍵遺跡	田原本町唐古地内	田原本町長	道路・水路整備	152	63.11.18	1.4.20	暗渠による破壊が著しいが一部で北東から南西方向の溝らしきものを確認、第12次調査のＳＤ-08に相当すると考えられる。
13	薬王寺南遺跡	田原本町薬王寺136	樋口巴	共同住宅建設	154	63.11.24	63.11.28	浄化槽埋設部分で立会、水田下0.5ｍで（古墳時代遺物包含層）を確認する。中世の柱(間1.8ｍ)２本を検出する。
14	千代遺跡	田原本町八条地内	田原本町長	下水路改修	159	63.11.25	63.12.3	現水路のため遺構面は削平ヘドロ化しており不明。
15	唐古・鍵遺跡	田原本町鍵127-1	松田敏夫	土盛造成	191	63.12.28	63.12.28	1×3ｍの試掘坑を深さ1.5ｍまで掘削する。弥生時代の相当層は深さ1.3ｍで青灰色粘土層。遺構・遺物はない。

番号	遺跡名	調査地	原因者	工事の目的	進達番号(田教文)	進達日	調査日	内　容
16	千代遺跡	田原本町千代235-5	川東朝夫	農家住宅新築	201	1.1.23	1.3.15	深さ0.9ｍの掘削であるが、コンクリート埋設のため不明。
17	千代遺跡	田原本町千代883-3,884-1 885-1	株式会社元塚組	資材置場	202	1.1.23	1.2.6	深さ0.9ｍの掘削。水田床土下（0.25ｍ）で黒粘層。遺物なし。
18	文応寺推定地	田原本町八尾164	西辻喜太郎、好子	青空駐車場	224	1.2.18	2.2.17	浄化槽埋設部分で立会。 盛土0.8ｍ水田層0.3ｍ粘土層でベース層。上面は削平を受けていると思われ、遺構等不明
	〃	〃（同一場所）	南大阪営繕㈲	専用住宅	178	1.8.29		
19	鏡作神社周辺	田原本町八尾633	森本興産株式会社	盛土、道路舗装、住宅	234	1.3.7	1.7.24	0.6ｍの客土、その下0.6ｍの掘削。遺物なし。
20	散布地（11-C-61）	田原本町大安寺34-5	片岡瑛	農業用倉庫	258	1.3.22	1.5.15	擁壁は水田床土層まで、建物基礎は盛土内のため不明。
21	保津・宮古遺跡	田原本町保津184	岩田俊一	農業用倉庫	259	1.3.22	1.3.17	水田面から0.4ｍの掘削わずかに中世土器片あり。
22	千代遺跡	田原本町千代212-1,212-3	楠田佐一	青空駐車場	261	1.3.22	1.7.31	擁壁部分の立会。0.7ｍの掘削で、底面では微砂及び砂層がみられるが、遺物等はない。
23	平野遺跡	田原本町平野72-10	田原本町長	公民館建設	2-2	1.4.7	1.6.4	0.7ｍの掘削。遺構・遺物なし。
24	鏡作神社周辺	田原本町八尾580-1	木村五郎	青空駐車場	117	1.6.26	1.8.1	擁壁部分で立会。深さ0.5ｍ底面は灰褐色粘質土で瓦片あり。遺構面はさらに深いようである。
25	千代遺跡	田原本町十代1101-1,1102-1他	小林一男	共同住宅新築	143	1.7.8	1.9.21	基礎部分の立会、客土1ｍ深さ1.5ｍの掘削。遺物なし。
26	鏡作神社周辺	田原本町八尾815	日吉丸産業株式会社	青空駐車場	145	1.7.19	1.7.19	西側水路の擁壁部分で立会。掘削0.6ｍ遺構遺物なし。遺構面はさらに下と思われる。
27	伊与戸遺跡	田原本町伊与戸147-2,147-3	梅谷佳央 鍛治本昭二	専用住宅新築	215	1.9.26	1.11.14	浄化槽埋設部分の立会。深さは1.2ｍ、中世～近世の瓦・土器を含む土層あり、寺院関係と思われる。
28	千代遺跡	田原本町千代270-2	岡田優	農業用倉庫建設	217	1.9.27	1.9.27	掘削1.1ｍ。遺物なし
29	保津・宮古遺跡	田原本町宮古池内	田原本町長	道路及び堤防改良	329	1.12.14	2.1.30 1.31	池底1ｍの掘削。池底で青灰色粘土層があらわれているところから、池築造によって遺構面は削平を受けている。
30	千代遺跡	田原本町千代1107,1108,1109	北林増夫	共同住宅新築	332	1.12.18	2.1.24	基礎部分で立会。客土0.4ｍ旧水田面から1.1ｍの掘削、遺構・遺物なし。

田原本町埋蔵文化財調査年報1

1988・1989年度

平成2年3月31日

編集発行　田原本町教育委員会
印　　刷　関西美術印刷株式会社

唐古・鍵遺跡第37次調査

東井上大日塚遺跡

保津・宮古遺跡第１次調査